

# PUERTO RICO RIDE.



# カリブ海に 浮かぶ島に エルトリック トリップ

撮影&キャプション / 神尾光輝 Mitsuteru Kamio



旅はサーファーとしての素質を高めるだけではなく、人として大きく成長できる時間を与えてくれる。この旅も間違いなくメンバー全員の意識は統一され、奇跡に近い波を呼び起こし貴重な経験を積むことができた。カリブ海に浮かぶ島プエルトリコには数多くのベストスポットが点在するが、その中でも滅多にスウェルディレクションが合わないという場所で今日のシューティングができたことはサーフトリップとしてこの上ない喜びを感じざるおえない。この地を良く知るフロリダ出身の元WCTランカー、ダニー・メルハドを中心にプエルトリコの秘宝ブレイクをスパークした。

フロントサイドダブルグラブエア、カメラマンのテンションを上げまくるフォトジェニックなサーフスタイルのイスキ。世界を転戦し続け確実にスキルアップしメンタルもタフになりつつある。今回も忙しい中、フォトシュートトリップに参加してくれたおかげで、意味ある一枚を作り上げてくれた。  
Izaki Tanaka.



# PUERTORICO RIDE.

文/ダニー・メルハド Danny Melhado

翻訳/貴子・メルハド Takako Melhado



## “豊かな港”

スペイン語圏カリブ海諸島のボリクア(Boricua・スペイン語)とはプエルトリコ住民、プエルトリコ系の意味を持つ言葉でローカルのことを表す。プエルトとは港(英語のPort)、リコは豊かな(英語のRich)と「豊かな港」という意味を持っている。1493年にあの新大陸発見のクリストファー・コロンブスの到着以来、スペインやアメリカを初めとする西洋人によって発展し続けてきた。おそらくこの島でのサーフィンは1960年終り頃から始まったとされている。

僕たちのこのトリップは1年がかりで計画して実現させた。ニュースクールとオールドスクールを持つ素晴らしいサーファーたちとの旅だ。クラシックスタイル、そして力強いサーフィンをいつもするU4、ニュースクール&エアリアルの人樹、ベテランサーファー&ガイドの僕、そして水中&ランドで優れた才能を持つフォトグラファー神尾という最高のメンバーだ。

冬期、ニューヨーク沖のノースアトランティックオーシャンでスウェルが発生し、大きな北西のスウェルに押されて、カリブ海の島々に流れていく。ニューヨークに大きなストームがあるときは、必ず3日後にプエルトリコにうねりがヒットする。冬のストームの完璧な通り道に位置しているのがここなのだ。ハワイとはほぼ同じ緯度だからスウェルのディレクションはハワイに似ているが、やはりカリブ海諸島へ入るうねりはそこまで大きくないが数多くの湾、リーフブレイク、白黒のサンドビーチがどの角度からでも向かい合っているため少しの知識で最高のクリーンサーフを見つかることができる。冬期の9月~4月は時として波のサイズとパワーに驚かされてしまうほどだ。

## この惑星で一番冷たいビールを出すところだ!

僕たちがプエルトリコを選んだのは、たくさんの波に囲まれカリブ海諸島の中では比較的近場で、安く旅ができるそんな理由からだ。カリブ海諸島はたくさんの島々が点在していて、イギリス領、スペイン領、フランス領と異なった島々がある。僕たちはスウェルのタイミングをはずらせずに、ただ僕たちを待ち受けている波に期待を抱きながら向かったのだ。

サンファンエアポートからノースウエストコーストまでの約2時間のドライブ後、地元“バリクワ”(Barista・スペイン語)に立ち寄った。バリクワとはちょっとしたバーのような、でも食事もちろんとできて、そして



ダンスも踊れるそんな場所のことを言う。温かいビーンズプレート、ライス、ベジタブル、チキン、シーフードなどの食事したり、ビールを飲んだり、もしくはただ座って暑い太陽の下で一日中おしゃべりするそんな場所だ。その店のオーナーはこの島で日本人に会ったことに興味を持ち、すぐさま食べ物の差し入れをしてくれた。プランテインのフライ、シュリンプ、そしてもちろん凍りがかっているメダリア缶プエルトリコの一般的なビールで僕たちは温かい歓迎を受けた。どの店でもビールを頼むと店の人が冷凍庫からビール缶を出すのは見ておもしろい。2、3回指で缶をはじきビシューッと音がするのを確認できたら凍っていない証拠だが、大抵がフローズン状態に近い。プエルトリコはこの惑星で一番冷たいビールを出すところだ! ボリクアは酒とパーティが大



このトリップの発起人で全てをコーディネートしてくれたダニー・メルハド。時代の違いで最近の若手サーファーには馴染みがないと思うが、元ワールドジュニアチャンピオン、元WCITランカー、プエルトリコマニア、山岳新道マスターにビルクレイジー……そして東洋サーフジャンキー、多岐なサーファーである。Danny Melhado

好きな島だ。ビーチでも、バリクワでも、ガソリンスタンドであろうと、ラムとビールでレゲトンのリズムに合わせてダンスをし、サルサはこの情熱的な人々の生活の一部になっている。

昨夜のパーティから回復するのに朝サーフィンは良い思いつきだった。僕たちクルーの行ないが良いのか、たくさんのリーフとビーチブレイクを見つかることができ、ほとんどが僕たちオンリー! 日本人にとってここまでは長旅だったが、特別な旅になっただろう。日中はものすごく暑いので、空いてる波を見つめるのには良い。夕方のグラッシーな波はベストかもしれないが混んでいる。

1日目からずっとロッキーコースト沿いの波とカリブ海伝統料理を探し求め、僕たちの短すぎる1週間を費やした。ホローウェイブ、マッシ



観光での遅チェックは必要不可欠である。